



パステルラボ
伊藤 数子 社長

いとう・かずこ 新潟大学工学部卒。現在、総務省情報通信審議会専門委員、いしかわ女性基金運営委員、金沢商工会議所評議員などを兼務。好きな言葉は「チャレンジ」。小物などを使い、人をビックリさせるイタズラが大好きで「社員は皆、被害者かも」と笑う。新潟県佐渡市生まれ。

障害者・高齢者にやさしい

電話対応力向上ソフトを自社開発

行政機関・企業におけるコンサルティングをはじめ、プロモーションの総合企画・マルチメディアコンテンツの開発など、人づくりに関する幅広いサービスを提供するパステルラボ(金沢市西都)。総務省をはじめ、国の出先機関、県・市町、大学などから高い信頼を得て、市場調査や広報誌づくり、セミナー企画などの受託業務を主に事業を展開する。女性起業家として脚光を浴びる伊藤数子社長を訪ねた。

「会社は自分の夢を叶えるステージだ」と、新入社員にいつも訓示する伊藤社長。大学を卒業して、CMなどの映像制作会社に就職。その時「映像を創るより、売れる方法があるのになあ」と思いながらも、自社の売上げにならないので提案できなかったサラリーマンの性を経験。「私ならこうするのよ。商品・サービスを考える段階から、早く私を仲間に入れて」という思いが募り、1991年、28歳の時に同社を設立した。

99年には東京オフィス(渋谷区)を開設。出向先の金沢で知り合い、東京の本省や本社に戻った人達と交流を深めるのに役立っている。「地方に本社を置くことは、田舎や自然も含めた広い視野で物事を見ることができ、バランスよく企画やアイデアが出せる。目標とする『地に足をつけた仕事を』にするのに最適な環境」と言い切る。

今後の課題は、これまでの受託業務中心を改め、自らが企画提案した商品・サービスを提供すること。「いつもやりたいことはオリジナリテイー。我々にしか出来ない商品・サービスを世の中に送り出していきたい」と言う。その一つが、障害者や高齢者からの電話対応力を向上させる「イーパステル」の開発。オペレーターの教

「夢をあきらめない」

育に最適であるとして、このほど、総務省の地デジコールセンターに採用された。

さらに、10月には有料職業紹介業の免許を取得。NPO法人S TAND(スタンド)の副代表理事として、障害者スポーツの振興に携わってきた。「障害者も健常者と同じように、スポーツ用具の購入や交通費などが必要であり、働きたい方々がたくさんいる。その職業紹介にも努めたい」と語り、スポーツをする障害者は挨拶をはじめ、人とのコミュニケーションにも優れ、一般企業でも十分に戦力になると評価する。

また、障害者スポーツの全国大会の一つである「第15回日本電動車椅子サッカー選手権大会」が24、25の両日、金沢市のいしかわ総合スポーツセンターで開催される。そのインターネット生中継に対して、地元企業に協賛をお願いしたところ、きんしんらが快く承諾してくれた、と感謝の言葉を述べる。

先日、女性起業家のフォーラムでパネラーを務めた時に、「なかなかうまくいかない。どうしよう段階で、あきらめたらいいのか」との質問を受けた。そこで「私には、あきらめるといふ言葉はない。やめることをまったく考えたくない」と答えながら、自身も初めてそのことに気付いた、という。「企業は何十年、何百年と継続して行く。その期間は、ずっとうまくいくわけではなく、皆、大変な時期はある。しかしやめてさえないなれば、そのことはただの歴史のひとつに過ぎない」と、自らを顧みて、起業家にエールを贈る。